

令和3年度 自 己 評 価 表						
中長期目標 (学校ビジョン)		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み		
評価項目		年 度 当 初 目標（年度末の目指す姿）		目標達成のための方策		
現状		経過・達成状況		各分掌の具体的な取組（中間評価）		
評価		評価		改善方策		
1	学力の向上	【授業改革】 ◇学力向上研修を予定どおり実施。研修を活かしている職員の割合は43%に上昇 ◇オンライン授業の導入に向けてICT活用研修を3回実施。講演会や式典等の学校行事を教室で観る技術が確立 ◇校内Web上にアクティブラーナーの情報を提供、オンライン研修に延べ7名参加 一人一授業公開はコロナ禍での展開が難しく、実施率は53%に下降(1月末) ◇対話的な学習活動に制限はあったが、ICTを活用した授業実践が徐々に浸透 評価アンケートによる生徒の授業満足度が76.8%に改善(昨年70.4%) ◇教員自主研修として「授業見学週間」を新設。また、鳥工版STEAM(教科横断型学習)の実施に向けて「単元・題材配列表」を作成 【学力の向上】 ◇基礎学力不足の生徒に対する指導を、1学期に各科が4回程度実施 ◇数学基礎演習を、工業各科・数学科が実施 ◇2年生で進学補習及び、成績不振者の「考査前自主学習会」を実施 【学習環境の整備】 ◇毎週初めを「5 S・あさひの日」とし、整備された室内環境を維持 ◇GIGAスクール構想に伴い、教室棟・共通実習棟のWi-Fi環境を増強 ◇プロジェクトの更新による視認性向上も、教材提示法の拡充【授業改革】	【授業改革】 ◇学力向上研修を生かしている教職員の割合が、昨年度よりも増加する(前年度43%、前前年度38%) ◇一人一授業公開の実施率が前年度を上回る(前年度53%) ◇生徒の授業満足度が前年度を上回る(前年度76.8%) ◇鳥工版STEAM教育を試行する ◇新学習指導要領に合わせて年間授業計画を見直す ◇アクティブラーナーの利用推進を図る 【学力の向上】 ◇入学時よりも生徒の数学力が向上している ◇特別講習を受けた生徒が、先端技術を習得することにより学力を向上させている ◇興味をもって授業に臨み、一人一人の知的総合力が高まっている 【学習環境の整備】 ◇生徒が自発的に「整理・整頓・清掃」を実践し、学習環境を整えている	【授業改革】 ◇教職員にとって有意義な学力向上研修会を企画する ◇教職員に一人一授業公開を促す ◇他の教職員の授業を見学できる期間を設定し、見学で発見したことを授業に取り入れるよう促す ◇教務掲示板とスクリーンで各種研修を案内する ◇他校のSTEAM教育実践事例を参考にして、鳥工版STEAM教育の実践方法をまとめる ◇スクリーンやメールでアクティブラーナーの利用を呼びかける 【学力の向上】 ◇数学基礎補習を各科で実施する ◇特別講習を各科に依頼する ◇知の世界の豊かさや深さ、面白さに触れる学習のあり方についての研究を継続的にを行い、全体で共有する 【学習環境の整備】 ◇「5 S・あさひ」の励行により、教室整備と授業規律の確立を目指すとともに、3 Sに重点的に取り組む時間を年5回設定する	【授業改革】 ◇7月に第1回学力向上職員研修会を実施、STEAM教育の導入に向けて情報を共有 ◇来年度以降の生徒一人1台パソコン保有を見据えて、各教科、各科がICT活用の授業を計画、実践 ◇アクティブラーナー関連情報を、教員の目にとまりやすい校内Web掲示板で提供 ◇気兼ねなく互いに授業を見学できる「授業見学週間」を設定 ◇7月に授業評価アンケートを実施。 【学力の育成】 ◇基礎学力不足の生徒に対する指導を、1学期に工業科が4回程度実施 ◇2年生対象の進学希望者補習を英語科と数学科実施 【学習環境の整備】 ◇「5 S・あさひ」を励行	【授業改革】 ◇第2回学力向上職員研修会にて、STEAM教育実践例を全教職員で共有 ◇引き続き、来年度以降の生徒一人1台パソコン保有を見据えた、ICT活用の授業を計画、実践する ◇アクティブラーナー視聴を推進 ◇授業評価アンケートの分析による、理解の満足感・達成感につながる授業づくり・活動場面づくり【学力の育成】 ◇基礎学力不足の生徒への指導を継続 ◇基礎力診断テストの結果を用いた面接指導を実施 【学習環境の整備】 ◇「5 S・あさひ」の取り組みを継続 ◇Wi-Fi環境の増強
	主体的な学習態度と実践	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間は昨年度に比べて減少 R2第2回80分/日(R1第2回93分/日) ◇予鈴を設定し授業開始までの準備・着席が良好 ◇授業ルールの明文化や実習前の活動内容確認で主体的な学習ができた	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習に意欲的に取り組む(目標とする学習時間:工業学科90分) ◇規律ある授業展開、場に応じた速やかな動作・集団行動ができる ◇基礎学力を身につけ、進路を意識し、主体的に学習に取り組むことができる ◇ICTを活用し実践力を身に付けている	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間増加に向けた取り組みを各教科で検討し取り組む ◇授業規律を具体的に周知するとともに各行事や学年集会等で集団行動の動きを身につける ◇基礎力診断テストを通じて学力を把握しD3の生徒の補習を行うとともに、進路意識の高揚をはかる ◇ICTを活用した授業展開や課題を検討する	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇授業のルールを明文化し、効果を発揮しているクラスもある。一方で規律を守れない生徒について、学年による個別指導や家庭訪問などし、授業態度の改善に努力 ◇教室棟巡回業務を利用し、授業中の生徒の様子を観察。授業態度の悪い生徒について、直接指導を加えるなど、授業規律の遵守に努めた ◇考査後を中心に、成績不振者に状況確認や学習目標を喚起 ◇基礎力診断テストの結果利用は不十分	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇タブレット等ICT機器を利用した授業の実践 ◇自宅学習調査活用 ◇授業規律など授業のルールの指導、学年による個別指導及び家庭訪問などをし、授業態度の改善への継続的な指導 ◇継続して、予鈴を意識させ、授業開始前の準備完了を継続的に指導 ◇考査後を中心に、成績不振者に対し状況確認や学習目標の喚起のための面談の実施 ◇基礎力診断テストの結果を生徒にフィードバック
2	豊かな人間性の涵養	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHRの事前事後研修を行い情報交換をおこなった ◇生徒情報の把握に努め、各学年、他分掌、スクールカウンセラー、家庭等との連携をはかった ◇性に関する指導講演会やLHRを通して、正しい異性観を持ち、性への自立共生がはかれた 【ハイパー・Q・U・いじめアンケート等の活用】 ◇hyper-Qアンケートと職員研修会を実施した ◇いじめ等に関するアンケート(計3回)を実施し、問題の早期発見・対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ◇校外の人権教育関係の研修の中止・延期が相次ぎ、参加の呼びかけができなかった(一人一研修、3月末53%) ◇公開人権教育LHR後に研究協議を実施	【人権教育・性に関する指導】 ◇生徒の人権意識の高揚と、他者の人権や存在の尊重 ◇生徒の実態に合った支援方法により、特別支援を要する生徒の安心した学校生活の確立 【ハイパー・Q・U・いじめアンケート等の活用】 ◇自己理解と集団規律の順守 ◇いじめの無い学校生活 ◇学校が楽しいと思えるとともに、悩みが相談しやすい雰囲気の高揚 【指導力向上の職員研修】 ◇職員の自主的な研修として「一人一研修」の参加100% ◇研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHR・性に関する指導LHRの実施 ◇特別支援計画を早期策定し、その支援に特別支援教育支援員を活用する 【ハイパー・Q・U・いじめアンケート等の活用】 ◇1・2年生2回、3年1回のハイパー・Q・Uを実施し、その都度データの読み取りや活用についで職員研修を行う ◇いじめアンケート、生活振り返りアンケート(1年のみ)、生徒会伝言BOX、相談室等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等関係分掌と情報を共有 ◇外部関係機関との連携 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報を発信し、オンラインも含めた研修会への参加を促進 ◇事前学習など人権教育LHRの指導案の協議	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHRの事前事後研修を行い情報を共有 ◇特別支援教育支援員と連携し、支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を実施 ◇人権問題講演会を実施(2年生) ◇人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で実施 【ハイパー・Q・U・いじめアンケート等の活用】 ◇ハイパー・Q・Uアンケートを実施し、生徒理解に活用 ◇いじめ等に関するアンケート(2回)及び1年対象の生活振り返りアンケートを実施し、問題の早期発見・対応に努め、関係職員と連携し適切に対応 ◇特別支援計画書を作成し、活用 【指導力向上の職員研修】 ◇校外の研修会の中止・延期が相次ぎ、また、事前予約が必要な場合が多いこともあり、参加率が低い ◇人権教育LHRの指導案をもとに協議	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHRに向けての事前研修・事後研修の充実 ◇校内人権教育研修会(職員向け)を2学期中に実施予定 ◇公開人権教育LHRの実施 ◇性に関する指導LHRの実施 ◇人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で継続実施 【ハイパー・Q・U・いじめアンケート等の活用】 ◇第2回ハイパー・Q・Uアンケートの活用に関する職員研修会の実施 ◇ハイパー・Q・Uの活用を促進 ◇第3回いじめ等に関するアンケートの実施 ◇特別支援職員研修会の実施 ◇支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を継続実施 ◇特別支援計画書の周知 【指導力向上の職員研修】 ◇校外の人権教育関係の研修への参加呼びかけ(校内web掲示板、個人案内等)
	健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ◇「5 S・あさひ」、あいさつ運動については、一定の効果をあげている ◇学年ノートの活用が曖昧になり、効果が半減した ◇臨時全校集会を2回開催するなど落ち着いた状況であった 【ボランティア活動】 ◇多くのボランティアが中止となり参加人数が14名に減少した 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動では多くの大会が中止となり、中国大会や全国大会に出場者数が11名であった ◇各委員会の活動が定着した 【環境改善】 ◇廃棄物2018年度比2%減、電力は2018年度比1%減という目標をあげているが、3月で廃棄物12.6%減・電力6.5%減だった 【安全教育】 ◇対象生徒を縮小したり、リモートでの視聴にするなどして、各種安全教室を実施することができた ◇自転車事故4件	【基本的生活習慣の確立】 ◇規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ◇頭髪検査の不合格者の減少、正しい制服の着こなしの定着 ◇授業規律順守を徹底 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の参加者がR2年度比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員の活動と生徒会活動の活性化 ◇部活動において、R3年度の中国大会出場者数の増加を目指す 【環境改善】 ◇毎月1回の環境講座等による教職員、生徒への啓発 【安全教育】 ◇環境LHR、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 ◇2018年度比可燃ゴミ排出量2%減、電力は2018年度比1%減を引き続き目指す 【安全教育】 ◇交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得	【基本的生活習慣の確立】 ◇日常的な頭髪・服装指導 ◇授業規律を明確化 ◇問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の場を広報し奨励 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ◇毎月の達成状況を公開し、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導、教室棟巡回業務の継続 ◇各教室安全教室の実施(携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)	【基本的生活習慣の確立】 ◇一部の生徒について、規定に反した頭髪の生徒が見られた。しかし、指導の結果、改善の傾向が見られる。 ◇日頃より生徒の状況を把握し、情報共有に努め、問題行動の未然防止につなげている 【ボランティア活動】 ◇コロナ禍により多くのボランティアが中止となり、参加者数4名(9月末) 【部活動、生徒会活動】 ◇コロナ禍により生徒総会をリモートで実施、球技大会はコロナ対策をのしての実施 ◇部活動では多くの大会が制限付きではあるが実施され、中国大会や全国大会に出場者数が77名であった 【環境改善】 ◇TEASの8月末での達成状況は、廃棄物2018年度比51.3%減、電力2018年度比0.2%減となっている 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導、指導部による交通指導は、計画通り実施し効果を発揮 ◇携帯マナー講習、交通安全教室、および非行防止教室は予定通り実施	【基本的生活習慣の確立】 ◇頭髪、服装規定の意義を改めて理解させ、規定遵守を徹底 ◇問題行動の未然防止のため、継続して生徒の状況把握、情報共有に努力 【ボランティア活動】 ◇引き続きボランティア活動の場を広報 【部活動、生徒会活動】 ◇関係分掌と連携し、より多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加できるよう支援 ◇部活動における外部指導者、部活動指導者の継続的な活用と連携 【環境改善】 ◇達成状況を生徒・職員に周知し、廃棄物・電力使用量削減に努力 【安全教育】 ◇「朝の交通指導」、「指導部による交通指導」を継続して実施 ◇薬物乱用防止教室の計画、実施
3	術師の習得的な知識・技術	【人材育成】 ◇新型コロナウイルスの影響によりいくつかの検定試験が中止となったが、受験した検定試験は合格率が上がりつつある ◇技術顕彰、ジュニアマイスター受賞者が前年度より増加した	【人材育成】 ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験にチャレンジ ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験に合格	【人材育成】 ◇資格、検定が進学に大きなプラスになることを認識させるとともに、各種大会への参加の啓発指導の継続 ◇生徒の資格取得状況の把握及び事前指導 ◇資格取得実績が伴う効果的な学習計画の立案と指導・支援の実施 ◇進路意識の高揚を図るため、インターンシップ、企業見学会の実施	【人材育成】 ◇企業見学は3年生で実施、2年生のインターンシップはコロナ禍のため中止 ◇鳥工版デュアルシステムは機械科、電気科が実施 ◇高校生ものづくり中国大会(M科(溶接部門)S科(電子回路部門)B科(測量部門))出場 ◇一人一資格取得の割合、学校全体では74.6%(3年:91.9%、2年:82.9%、1年46.7%)(9月末現在) ◇資格・検定試験の合格率は危険物乙424%(5/21)漢字検定準2級100%(2/2)3級67%(4/6)情報技術検定2級C43%(3/7)計算技術検定3級48%(40/83)機械製図34%(31/92)	【人材育成】 ◇インターンシップ未実施のため、実習や授業など機会を通して進路意識、職業意識の強化、高揚 ◇今後実施予定の資格・検定試験の案内、積極的な受験を奨励するとともに、補習計画や教材の整備、指導の強化 ◇2年生対象の分野別進路ガイダンスなどの充実、企業見学会の実施 ◇今後実施される高校生ものづくりコンテスト局取県予選会に向けて指導の充実と参加生徒の確保
	キャリア教育の充実と進路実現	【職業意識の育成】 ◇例年と異なり計画通り実施できなかった進路行事等に対して代替案を含め丁寧に対応した ◇応募前職場見学は就職希望者全員が参加 【進路指導の徹底】 ◇「進路の手引き」「キャリア・パスポート」を用いた進路LHRを展開 ◇進路面接資料(就職編、進学編)を作成し面接指導に活用 ◇昼休みに企業・学校説明会を計20回実施(昨年30回) 参加延べ人数302人(昨年185人)と大幅増。その内26人が説明会参加企業・学校に進路決定 ◇基礎力診断テスト、各種外部模試の実施、各教科・担任ヘフィードバックし効果的な指導を実施 ◇1回目の就職試験合格率は目標値の90%を超え91%を達成 ◇工業学科のみとなり、進学状況が4大17名(国公立4名含)、短大1名、専門学校等28名だった	【職業意識の育成】 ◇各学年の進路行事などの取り組みをとおして、進路意識が向上し労働観、職業観が育成されている 【進路指導の徹底】 ◇一回目の就職試験合格90%以上となっている ◇適切な進路情報を提供し、全生徒の進路実現がなされている	【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、各企業見学等の実施及び事前事後指導の徹底 ◇就職者希望者に対して、校内での進路行事を通じて社会人基礎力を高める 【進路指導の徹底】 ◇とことふるとキャリア教育の全体計画に基づき、「キャリア・パスポート」「進路の手引き」を活用し3年間を見通し、系統立てた進路指導、キャリア教育を実施 ◇校内の進路行事は、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供 ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科ヘフィードバック、効果的な指導を実施	【職業意識の育成】 ◇1学期の企業見学会は3年生のみ実施。インターンシップは中止 ◇3年生を対象にハローワーク鳥取より講師を招き、合同面接練習を実施 ◇「企業・学校説明会」を計23回実施、参加延べ人数311人(昨年度20回実施、参加延べ人数302人) ◇応募前職場見学は就職希望者全員が参加、県外事業所についてはオンライン説明会として対応 【進路指導の徹底】 ◇進路情報の発信(進学推薦依頼校の推薦条件公開、生徒玄関に進路情報コーナーを設置) ◇進学者希望者への面接対策として、10人面接を担当職員を割り当て対応 ◇校内WiFi環境整備により、オンライン面接試験対策としての模擬面接練習を実施 ◇進学者希望者の小論文対策として国語科、各進路科と連携し「セレクト小論文」を実施 ◇業種別試験対策の充実(オンライン鉄道業界就職セミナー参加)	【職業意識の育成】 ◇11月局取市主催の企業見学会は、出張企業説明会として校内で代替実施予定。 ◇就職内定者は、冬季開催の就職セミナーに参加予定 ◇継続して資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ◇「キャリア・パスポート」について、校外のキャリア教育研修会等で県や他校担当者や情報交換し適切な活用法について検討 ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科ヘフィードバック、効果的な指導の検討 ◇1・2年生に対して今後の進路決定を見据えた指導を実施。2年生には、個別進路面接を3学期実施予定。3年での進路決定への取り組みが円滑に行えるよう支援。 ◇2年生の個別進路面接を3学期に実施予定。
4	地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ◇上半期の企業見学、インターンシップなど各事業は概ね中止、下半期は企業見学など概ね予定通り実施 【情報発信】 ◇行事は少なかったが、実施したものについては案内、HPを更新、また学年によっては学年通信など随時発行 ◇出前授業の反応は良好、進路選択への影響を期待、中学校体験入学は説明見学のみの実施 【地域との連携】 ◇清掃活動、津ノ井地域懇談会は中止、マナーアップさわやか運動は9月分のみ実施(令和2年度) ◇テクノボランティアは7月のみ実施、12月は中止(令和2年度) 【PTA活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールなどを通じて情報を発信、ただし、令和2年度は中止、延期の連絡増加 ◇コロナ禍でもできる行事を精選して実施し、実施したものについては前年より参加者増	【人材育成】 ◇企業、地域産業から求められる能力を取得 ◇生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【情報発信】 ◇「ものづくり」の体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ◇地域行事、地域と連携した貢献活動等への参加 【PTA活動の推進】 ◇保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域の方々の本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り ◇保護者などが参加しやすい事業の計画	【人材育成】 ◇実施可能な行事では継続指導を行い、生徒への意識を徹底 【情報発信】 ◇実施可能な行事ごとに保護者への参加を促すHPやまちこみメールを継続活用 ◇出前授業、テクノボランティアなどの継続実施、タイムリーな記事やHP等で情報発信 【地域との連携】 ◇参加可能な行事には積極的に参加し、地域と密接に交流 ◇テクノボランティアなどの継続実施による地域貢献活動への参加 【PTA活動の推進】 ◇コロナ禍の中でも実施できる行事を精選し、できるだけ多くの保護者が関わることでできるように発信を密しながら、PTA活動の内容を検討	【人材育成】 ◇インターンシップは中止、代替案として企業見学を実施予定 【情報発信】 ◇HPのレイアウトを変更し、内容の充実化を図った ◇出前授業は例年通りの反応は良好、進路選択への効果を期待、中学生学校見学会を10月に実施予定 ◇学年通信などを随時発行して学校に見える化を図っている学年あり 【地域との連携】 ◇7月のテクノボランティア、9月の清掃活動は中止 ◇マナーアップさわやか運動を4月に実施 【PTA活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールを発信。ただし今年度は中止、延期の連絡増加	【人材育成】 ◇実施可能な行事では継続指導を行い、生徒への意識を徹底する 【情報発信】 ◇引き続き、HPの内容の充実化を図る ◇12月のテクノボランティア実施に向けて準備する 【地域との連携】 ◇参加可能な行事に積極的に参加する ◇地域貢献活動の一環として12月にテクノボランティアを実施する 【PTA活動の推進】 ◇学校行事との関連及びコロナ禍の状況を考慮しながら、PTA活動の内容を検討する ◇コロナ禍でもできる行事を精選の上、内容を検討しながら継続して実施する
	業務改善の実践	◇定期的な執務室の清掃を実施 ◇共有フォルダを再構成し、業務の手順書の作成を依頼したが次年度用のフォルダの構成が未完成なこともあり、不十分な状況 ◇時間外勤務について、部顧問間で計画的に指導を分担したり、時間外業務時間の現状をフィードバックするなどにより、H29年度比51%の削減 ただし、時間外業務時間が年間360時間を超えた職員が2名、月45時間を超えた職員が延べ5名	◇5 Sの実践に伴って業務場所や共有フォルダを整理・整頓し、見通しを立てながら業務を遂行 ◇QCストーリーに則した計画の見直しによる、業務内容の理解と実施時間の削減 ◇時間外業務について、月45時間、年間360時間を超える教職員の解消	◇定期的な執務室清掃の実施及び共有フォルダの使用ルールを設定 ◇要項・手順書を担当ごとに作成、また、業務終了後には、より良く引き継げるよう改訂してネットワークフォルダで共有 ◇部活動における休養日、活動時間を設定したうえで、顧問間で計画的に指導を分担 ◇行事、会議の精選についての検討 ◇時間外業務時間を管理職が適宜職員にフィードバック	◇執務室の清掃については各部署ごとに実施。共有フォルダの使用ルール、業務ごとの要項または手順書の作成については未確認 ◇部活動実施計画書を作成し、計画的に時間外業務等を分担 ◇管理職が時間外業務時間の現状をフィードバック ◇8月を除き、時間外業務の平均時間は昨年比で増加。月45時間を超える教職員は延べ8名であったが、月45時間を超える教職員数は減少傾向	◇執務室の清掃は引き続き一斉清掃日を設定、共有フォルダの設定ルールは見直しを検討 ◇業務実施に当たり、P D C Aの再確認 ◇部活動については時間外業務として月30時間を超えないように計画 ◇時間外業務時間の現状についてのフィードバックを継続し、縮減意識を浸透

注) 5 S : 整理・整頓・清掃・清潔・整 あさひ : 挨拶・作法・人の話を聴く ハイパー・Q・Uアンケート : よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート デュアルシステム : 学校の授業と並行して企業で学習するシステム テクノボランティア : 学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動 AL : アクティブラーニング QC (品質管理) ストーリー : 問題解決の手順 STEAM教育 : 科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び